

宮本たかし 県政 NEWS

2012新年号

宮本 たかし 事務所

〒915-0876 越前市白崎町73-1-3 3F
電話 0778-22-6633
ファックス



Vol.10

宮本たかしからのご挨拶



新年 明けましておめでとうございます。

皆様には健やかにて新しい年をお迎えのことと
いよいよお喜び申し上げます。また、日頃は私の政治
活動に対しひとかたならぬ御尽力を賜り改めて感謝
申し上げます。次第です。

さて、この夏より徐々にですが、政治家としての活動を
再開させて頂いております。昨年春に支援者の拡大を
進めていく中で、御同行頂いたりと私と共に汗をかく
頂いた方々に直接御礼を申し上げたいと各地区の世話
人の方々にお願いして開いて頂いた地区後援会も
いくつかの地区で未実施ではあるものの一通り終える
ことができた。御世話頂いた方々を始め、御参加頂い
た方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

福井県は現在、非常に難しい時期にあると思います。
しばらくは一県民という立場からですが、その時々「ピクッス」
については自分のホームページ等、ITツールやこの「News」
を媒体に積極的に自分の意見を含め、情報発信して
ゆきたいと考えており、その為にも皆様からの色々な御意見
を頂けたらと考えています。

環境マネジメントシステムの審査も再開し、毎日元気に過ごして
おりますので、今後共、温かいご支援頂きますよう伏して
お願いし、新年の御挨拶と致します。

宮本 俊

〈地区後援会〉

ご挨拶の中でも申し上げましたが、昨年春の準備段階から各地区の後援会の皆さまには本当にお世話になりました。にもかかわらず、悔し涙をのむ結果となってしまったのですが、けじめとしてそのお礼と候補者の力不足をお詫びする為、そして再起を目指してのお願いを直接申し上げる為に各地区で後援会を開催して頂きました。過去の軌跡についてご報告します。

6月2日	白山地区	7月8日	大虫地区
7月11日	味真野地区	8月20日	王子保地区
8月25日	西地区	8月28日	南地区
9月24日	神山地区	9月29日	吉野地区
10月28日	国高地区	11月18日	北新庄地区

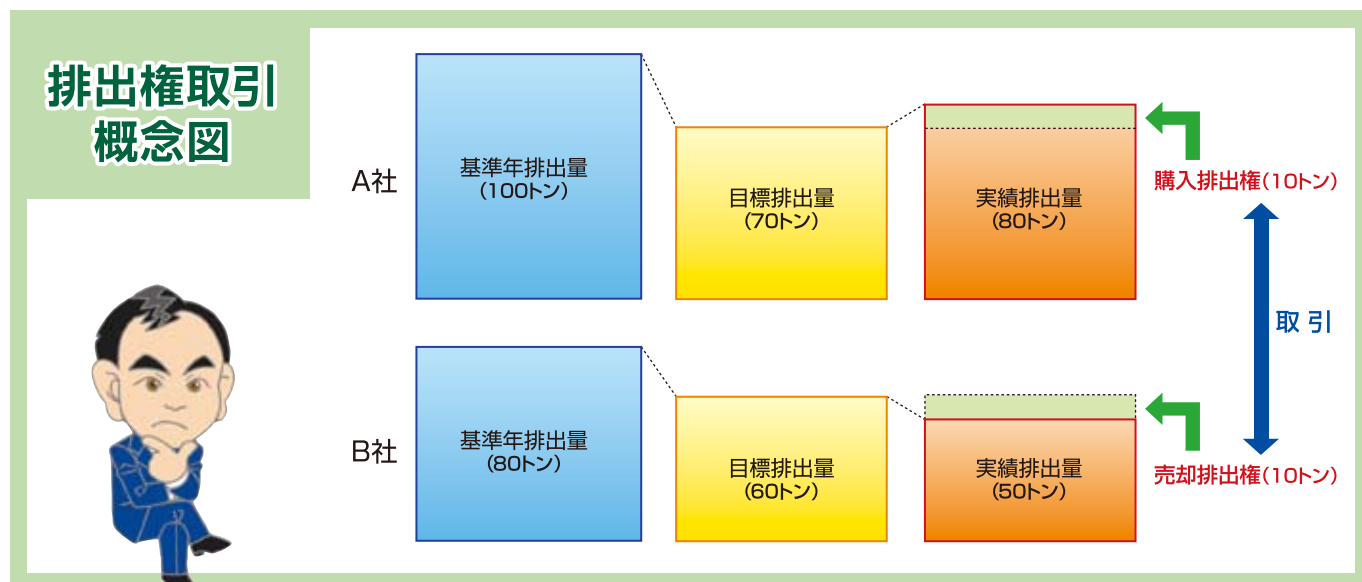


「今度こそはがんばろうー」「若いんやさけ気落とさんとがんばらなあかんやー」の声に心強く励まれ、元気100倍でした。合計で211名の方々に来て頂き、本当にありがとうございました。まだ出向けていない地区に関しても近いうちに開催させて頂きたいと思っています。

〈県政メモその5 ～排出権取引と福井県〉

それまでの活発な議論から、福島原子力発電所の事故を契機にちょっと下火になっている感がある地球温暖化の問題ですが、CO2の削減など遅かれ早かれ再燃してくる問題だと思っています。その解決方法として有望視されている「排出権取引」ですが、福井県もふくい版排出権取引制度ということで新しい施策をスタートさせるようです。今回はこの排出権取引について少しコメントしたいと思います。

まず初めは排出権取引とは何ぞや？ という話で、最近ちょこちょこ新聞等で出てくるキーワードなのですが、中味についてはよく知られていないのも事実です。要はCO2を排出できる権利を売買するというお話なのですが、ヨーロッパでは既に市場が開設されており排出権が売買されています。



排出権取引を論ずる前に「キャップアンドトレード (C&T)」という考え方を説明しなければなりません。C&Tとは各企業などで自主計画や規制により基準から何%削減しなければならないという目標値が設定されます。この目標値がキャップでそれ以上にならないように頭を押さえつけるというような意味合いになると思います。しかし、これはあくまで目標値であり実際には達成できないこともあるわけで、例えば5%削減の目標値に対して3%しか削減できなかった場合です。その場合、未達成分2%をどうにかしなければなりません。一方、5%の目標値に対して7%削減し目標値を上回って削減できた企業もあるでしょう。そこで先程の2%

足りない企業は2%上回って達成した企業から自社の不足分を買う(取引=トレード)ことになります。これがC&Tです。従ってキャップのないところ、つまり削減義務のないところには取引は存在しないことになります。現に東京都や埼玉県では地域版の排出権取引制度がスタートしており、ある一定の規模以上にはその目標値の設定が義務付けられています。多分、この制度に違和感を覚える方もいらっしゃると思います。それは目標値を設定し、できない分はお金ですますという制度の在り方にあると思います。この制度はヨーロッパでスタートしたもので、この例で言うならば、達成できた企業、できない企業いろいろあるだろうが、できない所はお金で買ってくればいいよ、そうすれば全体としてみれば5%の達成ができるという欧米的な合理主義から来ているものと考えています。もっと合理的な点としては目標を設定される企業は大企業が多く、従来から行っている環境活動の成果によりCO2の削減に関し既に限界値に達しているような状況も多くあります。この場合には取引先や子会社で目標値の設定義務のない小規模企業に対しその削減技術を指導、移転し、CO2が削減できたならその分は技術の出し手となる企業の削減分としてカウントしていいことにもなっています。

排出権が市場にて売買されるようになると価格変動が起きてきます。削減できた組織が少なく削減できない企業が多ければ買い手が増えるわけで自ずと排出権の価格は上昇します。実際、福島での事故の際には市場におけるこの価格が急騰しました。

この排出権取引制度が普及されるとCO2の削減という環境活動が経済的な価値を持つようになります。つまりCO2の削減ができない企業は排出権を購入するため大きなコストを強いられ、逆に削減がうまくいく企業には売却できる資源が発生することになります。従来の環境活動は企業イメージを高めるといような実質的な経済価値の算定がしにくいものでしたが、今後はこれら活動は「いくら」という金額にて算定されるようになってくると考えています。ちなみに現在の1トン当たりの排出権は1500円程度、将来的にはこの価格は1万円を超えると予想する向きもあるようです。

福井県における「ふくい版排出権取引」については紙面の関係上今回は割愛し、次回でもこの紙面に述べたいと考えています。

〈シピィについて〉



シピィの核テナントが決まったようです。企業名は「大黒天物産」(<http://www.e-dkt.co.jp/>)という岡山の会社で「ラ・ムー」(35店舗)「ディオ」(31店舗)「ディオマート」(2店舗)などの店舗ブランド名でディスカウントストアチェーンや100円ショップ(バリュー100)を運営しているようです。もともとは食品の卸を業としていたようですが、現在は小売中心で営業展開をしているようです。どのブランドで越前市に出店するかは分かりませんが、まだ一店舗しかない生鮮食料ディスカウントの「ハッピー」で出店もあり得るのではとも考えています。

大虫地区、神山地区を始め、旧シピィの近くの地域の方からはシピィはどうなってしまうの?というご質問をよく受けました。買い物ができる場所の確保という意味ではいいニュースだと喜んでいる次第です。

しかしこの企業、かなりアグレッシブなようでディスカウントの幅もかなり高い(値段が安い)ようです。市内の食品業界の方にお話を伺ったのですが、域内の小規模小売店へは少なからず影響があるであろうとのことでした。物の値段が安くなることは消費者として歓迎すべきことですが、地元業界としては頭の痛い部分もあるようです。大型店の出店と地元小売店の育成は常に出てくる問題です。出店自体は世の中の流れで止められるものではないので、地元小売店としては配達や商品知識の提供、地域ならではの人的ネットワークなど価格ではない部分で競争していくしかないかなと考えています。



テニス親子大会にて。娘と一緒に出来るわけもなく一人で参加(^^;



参議院議員義家氏を講師に招いて自民党福井支部「ふくい政経アカデミー」を開催。コーディネーターを致しました。



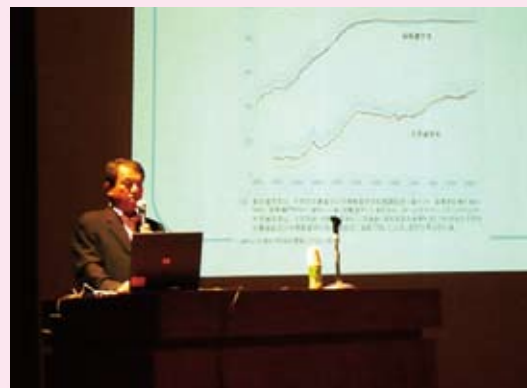
自民党本部にて石原伸晃幹事長と。



JAたけふ「中央クラブ」恒例のそば打ち会にて。



学童軟式野球大会にて始球式のピッチャーをさせて頂きました。



小中学校の先生150人の前で「魅力ある学校づくりへの提言」というタイトルで講師をさせて頂きました。



文京二丁目恒例のふれあいウォーキングにて長〜い太巻きに挑戦。



武生商工会議所青年部「クリスマス家族会」にて。サンタの格好でまるもりダンスをご披露しました。まるまるもりもり♪